

# まよめなかの

発行責任者  
隠岐広域連合立  
隠岐病院長  
隠岐の島町城北町

## 隠岐病院

### 全面改築によせて



隠岐病院長  
たけだ ひろし  
武田 博士

寒暖の激しい今日この頃ですが、病院近隣の桜の蕾もほころび始め、此所彼処に力強い命の息吹を感じる時節となりました。

じっくりと検討を重ねてまいりました病院整備の基本計画も固まり、心待ちにしておりました基本設計の業者の選定にかかる運びとなりました。偏に島民の皆様及び関係各位の熱い思いとご尽力によるものであり、心からの敬意を表すると共に深く感謝して

さて新しい病院の基本計画につきましても、整備室の方から具体的なお話を頂くことになっておりますし、私は病院で働く医療人の一人として新病院にかける夢や期待を思いのままに書いてみます。基本計画と重なる内容もあり、医々とも座談会でお話したこともありしますので重複するところはご容赦ください。

着任以来この二年、病院の心のバリアフリーに努めてまいりました。病気になるないと足が向かない病院ではなく、普段の生活の中で皆様の往き来する気軽に受診できる施設でありたいと願っております。ポランテイアの方々による院内の絵画、生け花、壁の塗装など一般の方々とも共有できる空間を作って頂きましたし、「隠岐たんぽぽ」の方々も院内の部屋を共有して頂いております。患者さんとご家族の皆様の施設であることは勿論ですが、一般の方々にと更なる多くの空間を共有出来る施設作りを目指したいと考えています。

ますます高齢化が進む状況にあつて、町民の皆様が恙なく日々を過ごされるためには健康長寿が必須です。いつも申しておりますが、病気の後追い治療ほど空しくて悲しいものはありません。病を得てからでは患者さんの闘病は辛く、支える家族のご苦労も大変です。老々看護も老々介護も大変です。現在の医療では多くの病気の治療は不完全で大変であります。予防の検査や治療はかなり進んでいきます。身体の不調を覚えないう状態で健診を徹底して頂ければ病気を回避することが出来ます。がん、心筋梗塞、脳卒中など罹防可能です。人間ドック、健診に大きな役割が果たせる施設でありたいと思えます。

町民の皆様が安心して検査や治療を受けて頂く為には、職員の医療力（医療能力）への信頼が絶対に必要です。本土へ渡らなくても満足して頂けるように実力を高めるには、視聴覚学習の備わった図書室や実技の研修室等職員が常に上を目指して自己研鑽出来る設備が必要です。若い職員の能力向上やベテラン職員の新しい専門分野等へ対応できるものであつて欲しいと思えます。

これから医療の高度化が進み三次医療を提供する中核病院（県立中央病院、日赤や大学病院等）はますます細分化し専門特化が進みます。一方で地域医療を支えるには、疾患の多くを占める日常的な病気の診断と治療へしつかりと対応できる医療施設が必要です。医療の両極化です。ありふれた病気を扱い、かつ的確に三次医療疾患を見極めることを使命とする地域医療においては、専門性の高さより診療科の壁を越えた診療幅の広い医療が求められます。

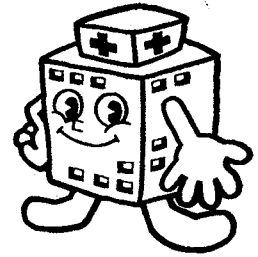
次ページへ

医師だけでなく看護師、医療技術者全ての職種に総合診療の考えがなければなりません。こうした二次医療に対応したいわば総合診療医療人を育成する新病院を目指したいと思っております。

それから島の七割近い最後の看取りをさせて頂いている病院の特性があります。温かく地域の文化に育まれた最後の看取りが出来た施設にしなければなりません。また、病院という現界（此岸の世界）から神界（彼岸の世界）へ向かわれる境界の空間（冥界）が霊安室だといえませぬ。設計の段階で隠岐宗教界の人達のご協力を得て、亡くなられた方の人権に配慮し隠岐の信仰に叶った部屋を作らなければならぬと考えています。

まだまだ基本計画の内容と重複する想い・期待が書ききれない程ありますが、六月には基本設計の業者さんも決まります。皆様に愛され信頼される病院作りに徹したいと考えていますので、皆様からの積極的なご意見を是非にも賜りたいと考えておりますので宜しくお願いします。

## 隠岐病院整備基本計画の概要



### 〔基本理念〕

～ 人々から信頼され愛される病院 ～

人々が心に癒しや安らぎを感じ、安心して医療を受けられる病院

### 〔基本方針〕

1. 隠岐医療圏域の中核医療機関として機能し役割を果たす病院
2. 地域の医療機関や保健・福祉・介護施設の連携を推進し、ヒューマンネットワーク構築による一貫した医療を提供する病院
3. 説明と同意に基づく、良質で患者中心の医療を提供する病院
4. 継続的に良質な医療を提供するため経営健全に努める病院

### 新病院の機能及び連携

- (1) 隠岐圏域の医療の中核を担う病院づくり
  - ①二次医療提供体制の充実 ②救急医療体制の充実 ③地域の医療機関等との連携
- (2) 高齢化社会に対応した病院づくり
  - ①地域特性を踏まえ、高齢社会の変化に柔軟に対応できる体制
  - ②高齢社会在宅ケアの充実とリハビリ機能の強化
- (3) 機能的で優れた療養環境を持つ病院づくり
  - ①アメニティーに配慮した病院 ②機能的で無駄の無い病院
- (4) 災害救護体制機能を持つ病院づくり
- (5) 総合診療情報システムを備えた病院づくり
  - ①電子カルテシステムを導入 ②業務改善及び医療サービスの向上
- (6) 救急患者の搬送体制の充実した病院づくり
  - ①患者搬送体制の充実のため敷地内にヘリポートを整備
  - ②大規模災害時の患者搬送に利用、将来的には医療スタッフの搬送も想定
- (7) 研修機能を備えた病院づくり
  - ①地域医療の実践の場を背景とし医師の研修機能を充実

### 新病院整備の概要

病床数 一般病床：91床 精神病床：22床 感染症病床：2床  
合計：115床

#### 診療科目（14科）

内科 神経内科 小児科 腎臓内科 外科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 皮膚科  
整形外科 眼科 産婦人科 精神科 救急科 歯科口腔外科

#### 施設規模

新病院の規模は、延べ床面積 8,600㎡程度とする。

敷地面積は、現有の13,200㎡に旧杉の子学園跡地を取り込み約18,000㎡とする。

#### 整備場所

現病院西側とする。現病院跡地は駐車場及び緑地帯として整備。

#### 事業費

●全体事業費	：	50.8億円	
・	建築事業費		35.1億円
	（設計監理・設備・外構・ヘリポート・解体費含む）		
	医療器械費（医療機器・電子カルテ・その他備品等）		10.9億円
	医師住宅整備費		1.5億円
・	用地補償費・事務費等		3.3億円
	合計		50.8億円

視界良好！  
H24年には、新病院に  
着陸します。



#### スケジュール

年度	内容
20	基本計画策定 基本設計公募
21	基本設計・実施設計 旧杉の子学園解体工事 電子カルテ整備（H21～23）
22	新病院建設工事
23	新病院建設工事 医療機器整備 開院のための訓練等
24	新病院開院（H24春） 現病院解体工事 外構工事 医師住宅建設工事

## 病院作りの礎石の六年間

隠岐病院退任あいさつ

副院長 米田 幸夫

三月を持って定年退職を迎えることになりました。隠岐病院在籍中は執行部の皆様方のもとより関係機関、議員、地域住民の皆様方のご支援を頂き、何とか大役を終え隠岐病院で定年退職を向かえることができました。改めまして感謝を申し上げます。次第です。

思いおこせば平成十四年に当時の山下連合長、田中副連合長、笠木院長から副院長（事務局長兼務）として病院の再建と新病院建設という二つの課題について力を貸してほしいとの要請を受け早いもので六年間過ぎました。私も以前から隠岐病院についてはシンポジュームの開催等に係わっていた関係上若干の情報をもっておりましたが不安を抱えながらの着任でした。

着任に当たり私の持論ですが自治体病院の再建には四つの視点からの取り組みが必要と捕らえておりました。

一、開設者・議会とのパートナーシップ。  
二、管理職のリーダーシップ。  
三、職員のプロフェッショナル

シップ。

四、地域住民の皆様方とのフレンドシップであります。

以上、四つの視点が一体とならなくては病院の再建とその延長上にある新病院建設はないと言うのが私の持論でありました。

そのような視点から、着任三年間は設置者である自治体や地域住民の皆様方との信頼関係の構築にむけて内部改革を中心に自立自助努力による経営健全化を目指して専門性や効率性の追求と職員の意識改革、医療安全管理を目的に取り組みました。具体的には専門性や効率性の追求については

- ・ 医事業務（医療事務、ヘルパ
- ・ SP D（院内物流システムの

見直し）

- ・ 給食・廃棄物・洗濯

の外部委託を行い、委託による余剰人員を隠岐病院に欠けていた病歴室の立ち上げ、医療相談室の拡充を行ってきました。

職員の意識改革については接遇研修、各種研修、QC活動の

推進を行い自己研鑽による質の向上に向けた取り組みをおこないました。

医療安全管理については指標として医療機能評価の受審・認可（あらゆる視点からの評価項目による病院評価）を目指しハード面、ソフト面の整備を行い、一環として医薬分業を行なってきました。

後の三年間は運営の視点から開かれた病院づくり、地域住民の皆様方や設置者との信頼関係の構築にむけて自治体病院の役割として公共の福祉の増進や採算抜きでもやらなくてはならない課題について地域ネットの構築やサービスマスの推進にむけて取り組んできました。

具体的には

- ・ まめなかの講座の開催
  - ・ 訪問リハの開始
  - ・ 助産師外来の開始
  - ・ いいとも座談会の開始
  - ・ 診療所からの検査受託
  - ・ 保健医療福祉の連携（特定検診、がん検診の施設検診）
- などがあります。

六年間を通しては東京在住中のパイプを生かし、連合長との同席やご支援を頂ながら離島の医療の現状や課題点について厚生労働省を始め国の関係機関、自

自治体病院協議会、離島振興協議会等に診療報酬の改定、交付税措置の見直しなど意見具申を行ってきました。改正点は診療報酬上の離島加算、交付税措置の不採算地区病院の定義の見直し、救急医療に対する財政支援等が措置されました。

結果として皆様方のご支援により何とか二つの課題を何とかクリアすることができました。着任した当初は内部や外部からよそ者呼ばわりを受けましたが隠岐病院への思いは隠岐在住の皆様方には負けない気持ちで取り組んで参りましたのでご理解いただければ幸いです。

現在、地域住民の皆様や職員の夢でも有りました隠岐病院建設は平成二十四年のオープンを目指しております。病院建設につきましてもまだまだ課題が山積してはいますが皆様方の一層のご協力とご支援を賜りますとともに最後になりましたが皆様方のますますのご健勝を祈念し退任のご挨拶とさせていただきます。本当にお世話になりました。難うございました。

私の描いていた病院作りの礎石の六年間でした。改めて感謝申し上げます。